平成27年第2回（11月）

広島県後期高齢者医療広域連合議会定例会会議録

広島県後期高齢者医療広域連合議会

平成27年第2回広島県後期高齢者医療広域連合議会定例会会議録目次
第1日（11月11日）

出席議員	1
欠席議員	1
説明員	1
議事補助員	2
議事日程	2
会議に付した事件	3
開会・開議宣告(午後1時35分)	3
広域連合長の議会招集挨拶	3
日程第1 仮議席の指定について	4
諸般の報告	4
日程第2 議長の選挙について	5
追加議事日程	6
日程第1 議席の指定について	6
会議録署名者の指名	6
日程第2 会期の決定について	6
日程第3 副議長の選挙について	7
日程第4 議案第11号 広島県後期高齢者医療広域連合監査委員の選任について	8
日程第5 議案第12号 広島県後期高齢者医療広域連合副広域連合長の選任について	9
日程第6 議案第13号 専決処分の承認について（平成26年度広島県後期高齢者医療広域連合後期高齢者医療特別会計補正予算（第3号））	10
日程第7 議案第14号 平成26年度広島県後期高齢者医療広域連合歳入歳出決算認定	12
日程第8 議案第15号 平成27年度広島県後期高齢者医療広域連合後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）	23
日程第9 一般質問（21番佐中議員）	25
議了宣告	26
広域連合長の閉会挨拶	27
閉会宣告(午後2時51分)	27
会議録署名	28

広島県後期高齢者医療広域連合議会会議録 第21号

平成27年11月11日（水曜日）KKRホテル広島「安芸」

出席議員

1番	伊藤	昭善
2番	木山	徳和
3番	原	裕治
4番	豊島	岩白
6番	片岡	慶行
7番	北元	豊
8番	分野	達見
9番	高本	訓司
10番	神原	孝己
12番	丸山	茂美
13番	沖原	賢治
14番	堀井	秀昭
15番	細川	雅子
16番	山下	守
18番	前重	昌敬
19番	山本	一也
20番	上原	貢
21番	佐中	十九昭
22番	沖田	ゆかり
23番	瀧野	純敏
27番	福田	義人
28番	片山	元八郎

欠席議員

5番	石崎	元成
11番	今岡	芳徳
17番	角田	俊司
24番	中本	正廣
25番	大林	正行
26番	浜田	明利

説明員

広域連合長	藏田	義雄
代表監査委員	加賀美	和正
広域連合事務局長	小林	秀行
広域連合事務局次長兼総務課長	宇都宮	弘司
業務課長	日浦	大三

総務課企画財政係長 平 田 好 一
業務課課長補佐兼賦課収納係長 伊 崎 喜 教

議事補助員

議会事務局長 本 越 秀 己
議会事務局長 末 友 美 恵
書記 重 藤 紀 子

議事日程（第1号）

（平成27年11月11日 午後1時35分開議）

日程第1 仮議席の指定について

日程第2 議長の選挙について

追加議事日程

日程第1 議席の指定について

日程第2 会期の決定について

日程第3 副議長の選挙について

日程第4 議案第11号 広島県後期高齢者医療広域連合監査委員の選任について

日程第5 議案第12号 広島県後期高齢者医療広域連合副広域連合長の選任について

日程第6 議案第13号 専決処分の承認について（平成26年度広島県後期高齢者医療広域連合後期高齢者医療特別会計補正予算（第3号））

日程第7 議案第14号 平成26年度広島県後期高齢者医療広域連合歳入歳出決算認定

日程第8 議案第15号 平成27年度広島県後期高齢者医療広域連合後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）

日程第9 一般質問

会議に付した事件
議事日程のとおり

午後 1 時 35 分 開 会

○広域連合議会事務局長（本越秀己）

本日の定例会は、議長が空席となっておりますので、議長が選挙されるまでの間、地方自治法第 107 条の規定によりまして、年長の議員が臨時の議長の職務を行うこととなっております。出席議員中、坂町の瀧野議員が年長でございますので、瀧野議員に臨時の議長として議事の進行を行っていただきます。よろしくお願いいたします。

○臨時議長（瀧野純敏）

ただいま紹介いただきました坂町の瀧野でございます。よろしくお願いいたします。

地方自治法第 107 条の規定によりまして、臨時の議長の職務を行います。

どうぞよろしくお願いいたします。

ただいまの出席議員 22 名であります。

地方自治法第 113 条により定足数に達しておりますので、ただいまから平成 27 年第 2 回広域連合議会定例会を開会します。これより本日の会議を開きます。

会議の開会に際しまして、広域連合長の挨拶があります。

広域連合長。

◎広域連合長（藏田義雄）

皆さまこんにちは。平成 27 年度広域連合議会定例会の開会に当たりまして、一言御挨拶を申し上げます。

まずもって、本日は、皆様方大変お忙しい中、招集をさせていただきましたところ、御多用の中を御出席賜りまして、厚くお礼を申し上げます。

御承知のように後期高齢者医療制度を含む我が国の医療保険制度につきましては、「持続可能な社会保障制度の確立を図るための改革の推進に関する法律」に基づきまして、着実に改革が進められているところでありますが、後期高齢者医療制度が今後も増加し続ける高齢者に対しましての安定した制度として継続できるようにす

るためにも、更なる検討また改善が求められておるところでもございます。広域連合といたしましては、今後とも国の動向をしっかりと注視をしつつまた把握しながら、各市町や関係機関と連携をより一層密にいたし、適切な制度の運営に努めて参りたいと考えております。

本定例会におきましては、平成 26 年度歳入歳出決算認定をはじめ、補正予算等の重要案件を提出させていただいておるところではありますがこれらの案件につきましては、後ほどご説明を申し上げますが、皆様方には何とぞ慎重に御審議の上、適切な議決を賜りますようお願い申し上げます。

皆様方、どうぞよろしく願いをいたします。

○臨時議長（瀧野純敏）

本日の議事日程は、お手元に配付しております議事日程（第 1 号）のとおりでございます。この日程によって議事を進めてまいりたいと思っておりますが、御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○臨時議長（瀧野純敏）

異議ないものと認めて、この日程で進めさせていただきます。

△ 日程第 1 「仮議席の指定について」

○臨時議長（瀧野純敏）

日程第 1 「仮議席の指定について」を議題といたします。

仮議席は、ただいま御着席の議席とします。

この際、御報告いたします。一身上の都合により、3 名の方から辞職願が提出され、閉会中につき、それぞれ北広島町の真倉和之議員については 3 月 24 日付け、庄原市の竹内光義議員については 4 月 27 日付け、福山市の稲葉誠一郎議員については 5 月 14 日付けで許可されておりますことを御報告申し上げます。

△ 日程第2 「議長の選挙について」

○臨時議長（瀧野純敏）

次に、日程第2「議長の選挙について」を議題とします。お諮りいたします。選挙の方法につきましては、地方自治法第118条第2項の規定により指名推選にしたいと思っております。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○臨時議長（瀧野純敏）

御異議なしと認めます。選挙の方法は、指名推選で行うことに決定しました。お諮りします。指名は、臨時の議長において行いたいと思っております。御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○臨時議長（瀧野純敏）

異議なしと認めます。臨時議長が指名することに決定いたしました。それでは、議長に2番広島市の木山議員を指名いたします。お諮りいたします。2番木山議員を議長の当選議員と定めることに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○臨時議長（瀧野純敏）

御異議なしと認めます。よって、2番木山議員が議長に当選されました。ただいま議長に当選されました木山議員が議場におられますので、当選の告知をいたします。

以上で私の議事進行の職務を終わり、議長に交代させていただきます。よろしくお祈りいたします。

ご協力ありがとうございました。

○議長（木山徳和）

ただいま議長に選出いただきました木山でございます。

一言御挨拶を申し上げます。この度は、広域連合議会の議長に御推挙いただき、誠に身に余る光栄でありますとともに、身の引き締まる思いでございます。今後とも議員各位の御支援と御協力を賜りながら、広島県後期高齢者医療広域連合の円滑な議会運営を心がけたいと思っておりますので、どうかよろしくお祈りいたします。

○議長（木山徳和）

本日の議事日程は、お手元にお配りしている追加議事日程でございます。この追加議事日程により議事を進めてまいりたいと思いますが、御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(木山徳和)

御異議ないものと認めて、この日程で進めさせていただきます。

△ 日程第1 「議席の指定について」

○議長(木山徳和)

それでは、日程第1「議席の指定について」ですが、議席は、会議規則第4条第1項により議長が指定いたします。

議席は、現在着席されている席といたします。

なお、本日の会議録署名議員として7番北元議員、27番福田議員を御指名いたします。

△ 日程第2 「会期の決定について」

○議長(木山徳和)

それでは、日程第2「会期の決定について」を議題といたします。

お諮りいたします。

本定例会の会期を本日1日間としたいと思っております。御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(木山徳和)

御異議なしと認めます。よって、会期を本日1日間と決定いたします。

△ 日程第3 「副議長の選挙について」

○議長（木山徳和）

次に、日程第3「副議長の選挙について」を議題とします。お諮りします。選挙の方法につきましては、地方自治法第118条第2項の規定によって指名推選にしたいと思えます。これに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（木山徳和）

御異議なしと認めます。選挙の方法は、指名推選で行うことに決定しました。お諮りいたします。指名は、議長において行いたいと思えます。これに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（木山徳和）

御異議なしと認めます。議長が指名することに決定いたしました。それでは、副議長に10番神原議員を指名いたします。お諮りいたします。10番神原議員を副議長の当選人と定めることに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（木山徳和）

御異議なしと認めます。よって、10番神原議員が副議長に当選されました。ただいま副議長に当選されました神原議員が議場におられますので、当選の告知をいたします。それでは、神原議員を御紹介いたします。

○副議長（神原孝巳）

10番神原孝巳でございます。どうぞよろしくお願ひします。

ただいまは本議会の副議長に御選任をいただきまして誠にありがとうございます。光栄に存じております。もとより浅学菲才ではございますが、議長を補佐し、そして議員各位の御指導と御鞭撻をいただきまして、円滑な議会運営に努めてまいりたいとこのように考えておりますので、何とぞ御理解と御支援のほどをよろしくお願ひいたしまして簡単ではございますが就任の御挨拶とさせていただきます。

どうもありがとうございます。

○議長（木山徳和）

この際、御報告いたします。

理事者側の説明員として、藏田広域連合長、加賀美代表監査委員、小林広域連合事務局長、宇都宮事務局次長兼総務課長、日浦業務課長、総務課平田企画財政係長、業務課伊崎課長補佐兼賦課収納係長を呼んでおりますことを御報告申し上げます。

また、議場配付いたしました例月出納検査結果について、監査委員から議長あての報告書の提出がありましたので御報告いたします。

△ 日程第 4 「議案第 11 号 広島県後期高齢者医療広域連合監査委員の選任について」

○議長（木山徳和）

次に日程第 4 「議案第 11 号 広島県後期高齢者医療広域連合監査委員の選任について」を議題とします。地方自治法第 117 条の規定により、片岡議員の退席を求めます。

○議長（木山徳和）

本件の説明を求めます。

◎広域連合長（藏田義雄）

（挙手）

○議長（木山徳和）

広域連合長。

◎広域連合長（藏田義雄）

ただいま上程されました議案につきまして御説明を申し上げます。

「議案題 11 号 広島県後期高齢者医療広域連合監査委員の選任について」でございますが、本件は、林敏夫氏の監査委員の任期満了に伴いまして、現在欠員となっております広域連合議員選出の監査委員として片岡慶行氏を選任することにつきまして、御同意をお願いするものでございます。議案書の履歴書にございますように、片岡慶行氏につきましては、現在、呉市議会副議長の職を務めておられ、知識、経験ともに豊かな方であることから、広域連合の監査委員として適任と存じております。

何とぞ、御同意を賜りますよう、よろしく申し上げます。以上です。

○議長（木山徳和）

本件は、事後の議事手続を省略して直ちに採決したいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（木山徳和）

御異議なしと認めます。本件を採決いたします。本件を同意することに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（木山徳和）

御異議がないと認めます。よって、本件は同意されました。退席中の片岡議員の入場を許可いたします。

○議長（木山徳和）

片岡議員の選任については、同意されました。

△ 日程第 5 「議案第 12 号 広島県後期高齢者医療広域連合副広域連合長の選任について」

○議長（木山徳和）

次に日程第 5 「議案第 12 号 広島県後期高齢者医療広域連合副広域連合長の選任について」を議題とします。本件の説明を求めます。

◎広域連合長（藏田義雄）

（挙手）

○議長（木山徳和）

広域連合長。

◎広域連合長（藏田義雄）

ただ今上程されました議案につきまして、御説明を申し上げます。

「議案第 12 号 広島県後期高齢者医療広域連合副広域連合長の選任について」でございますが、本案は、空席となっております副広域連合長の選任についての御同意をお願いするものでございます。議案書の履歴書にございますように平谷祐宏氏は、現在、尾道市長として御活躍中でありまして、学識、経験ともに豊かな方で副広域連合長として適任と存じております。

皆様方には、何とぞ、御同意を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

○議長（木山徳和）

本件は、事後の議事手続を省略して直ちに採決したいと思います。これに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（木山徳和）

御異議なしと認めます。本件を採決いたします。本件を同意することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（木山徳和）

御異議がないものと認めます。よって、本件は同意されました。

△ 日程第 6 「議案第 13 号 専決処分の承認について（平成 26 年度広島県後期高齢者医療広域連合後期高齢者医療特別会計補正予算（第 3 号）」

○議長（木山徳和）

次に日程第 6 「議案第 13 号 専決処分の承認について（平成 26 年度 広島県後期高齢者医療広域連合 後期高齢者医療特別会計補正予算（第 3 号）」を議題とします。本件の説明を求めます。

◎広域連合事務局長（小林秀行）

（挙手）

○議長（木山徳和）

広域連合事務局長。

◎広域連合事務局長（小林秀行）

ただいま上程されました議案につきまして、御説明申し上げます。

議案書の1ページをお開きください。「議案第13号 専決処分の承認について（平成26年度広島県後期高齢者医療広域連合後期高齢者医療特別会計補正予算（第3号）」でございます。この補正は、保険料還付金の支払額が当初見込み額より多く、保険料還付金の歳出予算に不足が生じたため、平成26年度後期高齢者医療特別会計予算を補正する必要が生じましたが、議会を召集する時間的余裕がなかったため、専決処分を行ったものでございます。

4ページ、5ページの「第1表 歳入歳出予算補正」でございますが、まず5ページの歳出をご覧ください。5ページ歳出の「8款 諸支出金」「第1項 償還金及び還付加算金」に500万円を追加するとともに、この財源とするため、4ページになりますけれども、同額を4ページ歳入の「7款 繰入金」「2項 基金繰入金」へ追加しております。以上議案につきまして概要を御説明申し上げます。

御審議の上、御承認を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

○議長（木山徳和）

本件については、質疑の発言通告がありませんので、本件の質疑及び討論を終結し、採決したいと思います。

御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（木山徳和）

ないものと認め、本件の質疑及び討論を終結いたします。本件を採決いたします。本件は、原案のとおり承認することに賛成の方は御起立願います。

（賛成者起立）

○議長（木山徳和）

起立多数。よって、本件は承認されました。

△ 日程第 7 「議案第 14 号 平成 26 年度広島県後期高齢者医療広域連合歳入歳出決算認定」

○議長（木山徳和）

次に日程第 7 「議案第 14 号 平成 26 年度広島県後期高齢者医療広域連合歳入歳出決算認定」を議題とします。本件の説明を求めます。

なお、本件の説明につきましては、長くなりますので、座って説明していただいて結構です。

◎広域連合事務局長（小林秀行）

（挙手）

○議長（木山徳和）

広域連合事務局長。

◎広域連合事務局長（小林秀行）

それでは、議案書は 6 ページでございます。「議案第 14 号 平成 26 年度広島県後期高齢者医療広域連合歳入歳出決算認定」について、御説明を申し上げます。

私から議案書について説明をし、別冊 2 の「歳入歳出決算書附属書類」及び別冊 3 の「主要な施策の成果説明書」については事務局次長及び業務課長に説明させます。恐れ入りますが座って説明をさせていただきます。

それでは、議案書の 7 ページ、8 ページをご覧ください。平成 26 年度一般会計歳入歳出決算の歳入でございます。一番下の歳入合計でございますが、「予算現額」が 10 億 3,911 万 6 千円、「調定額」「収入済額」ともに 9 億 5,122 万 9,697 円でございます。

次の 9 ページ、10 ページをご覧ください。歳出でございます。同じく一番下の歳出合計でございますが、「予算現額」が 10 億 3,911 万 6 千円、「支出済額」が 9 億 5,122 万 9,697 円、「不用額」が 8,788 万 6,303 円でございます。先ほどの歳入の「収入済額」からこの「支出済額」を差し引いた、表の下、欄外に記載しております「歳入歳出差引残額」は 0 円となります。

以上議案書の一般会計について御説明を申し上げました。次に、附属書類の説明をさせます。

◎広域連合事務局次長（宇都宮弘司）

（挙手）

○議長（木山徳和）

広域連合事務局次長。

◎広域連合事務局次長（宇都宮弘司）

それでは、お手元の別冊 2，歳入歳出決算書附属書類により、一般会計について御説明させていただきます。恐れ入りますが、座って説明させていただきます。

それでは別冊 2 の 1 ページ， 2 ページをお開きください。

一般会計歳入歳出決算事項別明細書で、まず歳入です。款ごとに御説明します。「1 款 分担金及び負担金」です。右のページの方ですが、収入済額に 9 億 1,490 万 4 千円で、全額 23 市町からの事務費分賦金です。「4 款 財産収入」は全額が基金の運用による利子収入で、収入済額は 24 万 6,981 円です。「5 款 繰入金」は財政調整基金等の繰入金で、収入済額は 3,567 万 2,963 円です。「6 款 繰入金」の収入済額は 10 万 7 千円で、「7 款 諸収入」の収入済額は 29 万 8,753 円となっています。

5 ページ， 6 ページをお開きください。続きまして、歳出についてです。「1 款 議会費」は、広域連合議会の開催に係る経費で、支出済額は 99 万 999 円、不用額は 92 万 2,001 円です。「2 款 総務費」は、職員の給与等負担金をはじめ事務所借上経費や高熱水費など広域連合の運営に係る経費などで、支出済額は 2 億 8,274 万 6,798 円、不用額は 905 万 4,202 円となっています。この不用額のうち、173 万 697 円は「使用料及び賃借料」で、これは主に事務所使用料の見直しにより減額となったものです。

続いて、9 ページ， 10 ページをお開きください。「3 款 民生費」は、これは特別会計の委託料等事務費への繰出金であり、支出済額は 6 億 6,749 万 1,900 円、不用額は、7,274 万 7,100 円で、この不用額は、特別会計の事務費の縮減を行ったことによるものです。

13 ページをお開きください。「平成 26 年度実質収支に関する調書」です。「3 歳入歳出差引額」及び「5 実質収支額」とも 0 円となっています。

以上で一般会計の説明を終わります。

◎広域連合事務局長（小林秀行）

（挙手）

○議長（木山徳和）

広域連合事務局長。

◎広域連合事務局長（小林秀行）

次に、特別会計の決算について御説明を申し上げます。座って説明をさせていただきます。

議案書の 11 ページでございます。11 ページからの歳入でございますが、13 ページ， 14 ページをお開きください。13 ページ歳入の表の一番下歳入合計でございますが、「予算現額」が 3,904 億 166 万 9 千円、「調定額」が 3,755 億 4,231 万 4,932 円、「収入済額」が 3,755 億 3,853 万 7,415 円、「収入未済額」が 377 万 7,787 円でございます。

次に 15 ページから 18 ページにかけて歳出でございますが、17 ページ、18 ページをお開きください。17 ページの表歳出合計は、「予算現額」が 3,904 億 166 万 9 千円、「支出済額」が 3,740 億 2,125 万 483 円、不用額が 163 億 8,041 万 8,517 円でございます。先ほどの歳入の「収入済額」からこの「支出済額」を差し引いた、表の下、欄外に記載しております「歳入歳出差引残額」は 15 億 1,728 万 6,662 円となり、平成 27 年度に繰り越しをいたします。

次に、付属書類の説明をさせます。

◎業務課長（日浦大三）
（挙手）

○議長（木山徳和）
業務課長。

◎業務課長（日浦大三）

それでは、別冊 2 「歳入歳出決算書附属書類」の後期高齢者医療特別会計について、御説明申し上げます。恐れ入りますが、座って説明をさせていただきます。

それでは、別冊 2 の附属書類の方ですけれども、14 ページ、15 ページをお開きください。「1 款 市町支出金」は、市町が被保険者から徴収した保険料と、医療給付費の 12 分の 1 相当分の市町負担金で、収入済額が 591 億 8,618 万 2,719 円でございます。「2 款 国庫支出金」は、医療給付費の 12 分の 3 相当分の国庫負担金や、広域連合間の財政調整を目的として交付される調整交付金などの国庫補助金で、収入済額が 1,236 億 3,655 万 9,494 円でございます。

続きまして、16 ページ、17 ページをお開きください。「3 款 県支出金」は、医療給付費の 12 分の 1 相当分及び高額医療給付費に対する県負担金で、収入済額が 309 億 8,728 万 5,135 円でございます。「4 款 支払基金交付金」は現役世代が加入する健康保険組合等から医療給付費の 10 分の 4 相当額が、社会保険診療報酬支払基金を通じて交付されるもので収入済額が 1,514 億 8,905 万 819 円でございます。

続きまして、18 ページ、19 ページをお開きください。「5 款 特別高額医療費共同事業交付金」は全国の広域連合が参加して国保中央会が実施している当該共同事業に拠出し、著しく高額な医療給付費が発生した場合に、国保中央会から交付される交付金で、収入済額が 6,064 万 8,379 円でございます。「6 款 財産収入」は、基金の利子収入で、収入済額が 494 万 9,681 円でございます。「7 款 繰入金」は、一般会計及び基金の繰入金で、収入済額が 26 億 2,801 万 385 円でございます。「8 款 繰越金」の収入済額は 68 億 9,190 万 283 円でございます。

続いて、20 ページ、21 ページをお開きください。「10 款 諸収入」は、延滞金、預金利子、交通事故など第三者の行為により治療を受けた場合の第三者納付金等を収入したもので、収入済額は 6 億 5,395 万 250 円で、収入未済額が 377 万 7,787 円でございます。

22 ページ, 23 ページをお開きください。「5目 返納金」の欄にあります, 収入未済額 374 万 437 円についてですが, 医療機関等の窓口での一部負担割合が 1 割から 3 割に変更となった場合に, 被保険者に医療給付費の差額分を請求したものが一部未納となっているものでございます。

続きまして, 歳出について御説明いたします。24 ページ 25 ページをお開きください。「1款 総務費」は給付事業等の運営のための事務経費で, 支出済額は 7 億 166 万 8,211 円, 不用額が 3,663 万 2,789 円でございます。不用額のうち委託料の 3,168 万 8,519 円は, 電算処理システムプログラムの独自開発の業務量減少によるものが主な要因でございます。

続いて, 26 ページ, 27 ページをお開きください。「2款 保険給付費」は療養給付費を中心とした被保険者への給付費と審査支払い手数料で, 支出済額は 3,627 億 3,720 万 2,483 円でございます。不用額は 162 億 6,990 万 5,517 円でございます。不用額については, 主に, 平成 26 年度, 27 年度の保険料率の設定を平成 25 年度に行った際, 一人当たりの医療給付費の伸び率が下回った事が主な要因でございます。

続いて, 28 ページ, 29 ページをお開きください。「3款 県財政安定化基金拠出金」の支出済額は, 国・県と同額の 1 億 6,918 万 2,146 円でございます。「4款 特別高額医療費共同事業拠出金」は, 全国の広域連合が参加して国保中央会が実施している共同事業に対する拠出金で, 支出済額は 7,860 万 3,173 円, 不用額は 646 万 5,827 円でございます。「5款 保健事業費」は, 市町が実施した健康診査事業, 歯科健康診査事業や長寿・健康増進事業などの保健事業に対する補助金を交付したもので, 支出済額は 2 億 3,493 万 2,115 円, 不用額は 3,761 万 5,885 円でございます。この不用額は, 市町の補助事業が見込みを下回ったものによるものでございます。

続いて, 30 ページ, 31 ページをお開きください。「6款 基金積立金」は, 後期高齢者医療給付準備基金と後期高齢者医療制度臨時特例基金への積立金で, 支出済額は, 後期高齢者医療給付準備基金が 24 億 4,863 万 1,681 円, 後期高齢者医療制度臨時特例基金が 18 億 8,215 万 6,700 円で, 合計 43 億 3,078 万 8,381 円, 不用額は 619 円でございます。「8款 諸支出金」は, 国庫負担金の返還金や保険料還付金等で, 支出済額は 57 億 6,887 万 3,974 円, 不用額は 66 万 1,026 円でございます。

続いて, 34 ページをお開きください。特別会計の「平成 26 年度 実質収支に関する調書」でございます。議案書で説明していただいたとおり, 「3 歳入歳出差引額」, 及び「5 実質収支額」とも 15 億 1,728 万 7 千円でございます。なお, この実質収支が多額となっておりますが, 平成 26 年度の国庫・県支出金は, 変更申請により減額すべきところ, 国から変更申請せずに, 減額すべき金額を含めて歳入として保有するよう指示があったことに加えて, 現役世代が負担する支払基金交付金の概算交付額も多かったことによるもので, 平成 27 年度に行う, 精算に伴う返還分相当額の財源となるものでございます。

続いて, 35 ページをお開きください。「財産に関する調書」でございますが,

「4 基金」につきましては、平成 26 年度末の基金残高は、財政調整基金が 3 億 1,510 万 8 千円、後期高齢者医療制度臨時特例基金が 2 億 1,035 万 5 千円、後期高齢者医療給付準備基金が 88 億 1,065 万 1 千円となっております。

以上で「歳入歳出決算書附属書類」の説明を終わらせていただきます。

◎広域連合事務局次長（宇都宮弘司）

（挙手）

○議長（木山徳和）

事務局次長。

◎広域連合事務局次長（宇都宮弘司）

最後に、「別冊 3 主要な施策の成果説明書」について、主なものをご説明させていただきます。

座って説明させていただきます。

まず、一般会計から御説明します。4 ページ「（2）後期高齢者医療特別会計繰出金事業」です。特別会計で行います給付事業等に要する事務費として、一般会計から特別会計へ 6 億 6,479 万 1,900 円を繰り出したものです。

続きまして、特別会計についてご説明します。

12 ページをお開きください。「（1）後期高齢者医療広報事業」です。後期高齢者医療制度の周知に係る広報活動を行い、制度の円滑な運営を図ったもので、事業費は、653 万 5,810 円です。平成 26 年 7 月に、被保険者証更新に合わせ、これを周知するポスターや制度全般を詳しく紹介したパンフレットを作成しました。

14 ページをお開きください。「（3）医療費適正化対策事業」です。後期高齢者医療制度の安定的な運営を確保するための事業に取り組み、医療費の適正化を図ったものです。表の上段、レセプト点検は、国保連合会へ委託し、レセプトの点検や、交通事故等の第三者行為のレセプト抽出などを行ったもので、こうした取組によりまして、四角の参考にありますように、平成 26 年度は約 17 億 7,040 万円の給付費の削減を図ることができたと見込んでおります。事業費 9,600 万円です。

次の医療費通知は、不正請求の防止やコスト意識の高揚を図るため、受診年月、医療機関名、日数、医療費の総額等を掲載し、年 3 回、延べ約 100 万件通知しました。事業費は、5,131 万 2,643 円です。後発医薬品に関しましては、14 ページの下の表から 15 ページの上の表にかけてでございますが、まず、ジェネリック医薬品希望カードの新規加入者への配付のほか、平成 24 年度から開始した、後発医薬品差額通知を引き続き実施し、後発医薬品の利用促進、医療保険財政の改善及び被保険者の自己負担の軽減を図ったものです。平成 26 年度は、8 月に 3 万 6,422 人に通知し、このうち後発医薬品切替者数は約 43%にあたる 1 万 5,773 人が切り替え、その効果額は年額に換算して約 3 億 172 万円と見込んでいます。事業費は、540 万円です。

続きまして、重複・頻回受診者訪問指導は、レセプト情報等によりまして選定し

た重複・頻回受診者に対して、保健師等により訪問指導を行い、適正受診を促進しました。平成26年度は、95人を訪問指導した結果、約62%の59人が改善され、その効果額は、年額に換算して約1,468万円と見込んでいます。事業費は、153万2,952円です。

続いて16ページをお開きください。「(4)療養諸費事業」です。入院ほか、歯科、調剤などの保険者負担分の療養給付費、コルセット等治療用装具を作製した場合などに給付される療養費等の給付を行ったもので、各費目の件数等は一覧表のとおりです。合計の保険者負担額は、小計の欄ですが、右から2列目のとおり、3,471億9,309万881円となっております。

続いて、18ページをお開きください。「(5)高額療養諸費業」です。月間で自己負担限度額を超えた場合に給付する高額療養費、年間の医療保険と介護保険の自己負担額を合算した額が基準額を超えた場合に給付する高額介護合算療養費の給付を行ったもので、それぞれの件数と保険者負担額は上の表のとおりで、事業費合計は137億8,547万5,071円となっております。

続いて19ページを御覧ください。「(6)葬祭費事業」です。被保険者が死亡した場合、葬祭執行者に対して3万円を支給するもので、平成26年度は合計で2万1,819件、6億5,457万円を支給しております。

続いて、21ページをお開きください。「(8)健康診査費補助事業」です。これは、市町が実施した後期高齢者の健康診査事業と歯科健康診査事業に対し、9,242万4千円の補助金を交付し、受診を促進したものです。

続きまして、22ページをお開きください。「(9)健康増進費補助事業」です。これは市町が実施する、表にありますように6つの長寿・健康増進事業に対しまして補助金を交付し、被保険者の健康づくりを促進したもので、延べ41市町の事業に対し、1億4,250万8,115円の補助金を交付したものです。

主要な施策の成果説明書につきましては、以上のとおりです。

なお、その下の「別冊4 監査委員の決算審査意見書」の説明は省略させていただきます。平成26年度の歳入歳出決算書等につきましては、本年8月に監査委員の審査をいただき、計数は正確であり、また、予算の執行は適正であると認めていただいております。

以上で「議案第14号 平成26年度広島県後期高齢者医療広域連合歳入歳出決算認定」についての説明を終わらせていただきます。

御審議の上、認定を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

○議長（木山徳和）

これより質疑に入ります。21番佐中議員から発言通告がございましたので、発言を許可します。

◆21番（佐中十九昭議員）

（挙手）

○議長（木山徳和）

21 番佐中議員。

◆ 21 番（佐中十九昭議員）

海田町出身の佐中と申します。通告をしておりますので、発言をさせていただきます。

まず、14 号議案、決算の認定の質疑でございますけど、一点目に、実質収支と保険給付についてお尋ねをいたします。実質収支が 15 億 1,728 万 7,000 円と、前年に比べ、大幅に減額をしております。保険給付費の伸びと今後の対応の見通しについてお尋ねをいたします。

二点目は、ジェネリック医薬品について、お尋ねいたします。保険給付費の軽減と被保険者の負担軽減のために、ジェネリック医薬品の普及啓発と差額通知が行われておりますけれども、PR 等実施の拡大についてお尋ねをいたします。

三点目に、健康診査費について。健康診査費については、補助金が各市町に交付をされております。平成 26 年度後期高齢者医療制度実施状況で見ますと、健康診査は 2 万 6,082 人が受診をして、9,242 万 4,000 円、人間ドックにつきましては、7 市 3 町で受診をして補助金 4,217 万 4,086 円が交付されております。そこで具体的にお尋ねをいたしますが、何人が人間ドック受診をされておりますか。そして、7 市 3 町はどこの市と町なのか、そしてそれぞれ個別の市町は何人なのか、お尋ねをいたします。なぜ 7 市 3 町以外対象者はいないのか。その実態はどうかお尋ねをいたします。

四点目に、健康診査の実施状況及び受診率の向上策、また、人間ドックの実施市町の拡大についてお尋ねをいたします。以上です。

◎広域連合事務局長（小林秀行）

（挙手）

○議長（木山徳和）

広域連合事務局長。

◎広域連合事務局長（小林秀行）

質問にお答えを申し上げます。

まず保険給付費の伸びと今後の対応の見通しということでございます。平成 26 年度におきましては、被保険者数が対前年度 1.2%の増、医療給付費が対前年度 1.8%増ということでございまして、広島県の後期高齢者の人口動向を踏まえますと、医療給付費は今後も増加していくことが見込まれております。こうした中、当広域連合におきましては、医療費の伸びを抑制をしていくため、先ほど主要な施策の成果でも説明いたしましたが、医療費通知それから重複・頻回受診者に対して適正受診を促進するための訪問指導、生活習慣病等を軽症のうちに早期発見するための健康診査事業また市町が実施する被保険者の健康増進のための事業に対して補助

を行う長寿・健康増進事業など各種事業に取り組んでおるところでございます。今後とも、市町と連携をいたしまして、高齢者の健康づくりの推進、医療費の適正化、保険料収入の確保など、当広域連合の健全な運営を図っていききたいというふうに考えております。

二点目は、ジェネリック医薬品についてでございます。医療費が増大していく中、後期高齢者医療制度の安定的運営をしていくための方策の一つとして、後発医薬品の普及に向けた取組みを進めていく必要があると考えております。広域連合では、医療機関や薬局で提示するジェネリック医薬品希望カードの配付を平成 21 年度から開始しておりますほか、平成 24 年度から加入者に毎年配付する小冊子「後期高齢者医療制度のしおり」に後発医薬品についての説明を加えるとともに、後発医薬品を利用した場合の先発医薬品との薬剤額の差額を通知し、後発医薬品の利用促進によりまして、医療保険財政の改善と被保険者の自己負担の軽減を図っているところでございます。引き続き本事業を継続していくとともに、特に後発医薬品差額通知については、切替率、削減額ともに一定の効果が得られておりますので、対象者の抽出条件等の見直しなど、より効果の高いものとなるよう、検討していききたいと考えております。

三点目の健康診査費についてでございます。まず、何人人間ドックを受診しているかでございますが、平成 26 年度、広島県内で 1,588 人の被保険者が人間ドックを受診されておられます。市町ごとの内訳でございますが、竹原市 238 人、尾道市 227 人、福山市 62 人、三次市 338 人、大竹市 103 人、廿日市市 78 人、安芸高田市 349 人、府中町 90 人、安芸太田町 18 人、世羅町 85 人となっております。平成 26 年度におきましては、この 7 市 3 町の他には、人間ドック事業費用助成に係る実績はございません。

人間ドック費用助成につきましては、広島県後期高齢者医療制度特別対策補助金交付要綱に基づき、市町が行う長寿・健康増進事業の一つとして補助を実施しているところでございます。事業そのものは各市町の判断において、実施されているものでございます。今後も、市町担当課長会議等を通じて、この制度について周知していききたいというふうに考えております。

健康診査につきましては、実施主体を市町として実施をしておりますが、平成 26 年度の実績は、受診者数が 26,082 人で前年度に比べ 11.7%増加、受診率も 8.54%と前年と比べ 0.75 ポイント上回っておりますが、受診率が依然低い状況にあると認識しております。このため、受診率向上のための取組として、健康診査ガイドブック、広報誌やホームページ等を通じて、健診の周知及び受診の啓発を行うことなど、市町等と連携をいたしまして受診率向上に努めてまいりたいというふうに考えております。以上でございます。

◆ 21 番（佐中十九昭議員）
（挙手）

○議長（木山徳和）

21 番佐中議員。

◆ 21 番（佐中十九昭議員）

一点目の実質収支と保険給付の問題ですけれども、先ほどの資料 2 の 34 ページでございますが、減っているのは私理解できますし、そのように思います。ただこれによってですね、先の全協でもありましたけれども、平成 28 年・29 年度に大幅の、そういう料金改定に引きつなげる、またそれが反映をする、非常に懸念を持っております。

この問題について、いろいろ努力をされておられますが、今後、そういう問題について、収入の少ない人、またいろんな生活でしわよせが来ている人について軽減をされるように今後見直し、あるいはそういう設定をする場合に配慮すべきだというように思うのですが、それをどのようにお考えですか。

二点目ですが、これも先ほど答弁あるいは説明の中にありましたが、高齢者が具体的に医師や薬剤師にですね、ジェネリック医薬品についてそれを伝える方法、具体的にどのようにね、ただ文書を配るだけでそれが本当に伝わってない、このように考えますが、どうですか。お尋ねします。

それからもう一つ、人間ドックの問題。行政の執行上、差別や区別の無いサービスを取れるのは当然だというように思うのです。高齢者にとって、健康で快適な人生を送るという手助けをするのが老人保健法であり、また後期高齢者医療制度である、この精神からみれば、私はいろんな差別や区別があること自体が不十分だというように思うのですが、そのへんがどうなのかお尋ねします。

○議長（木山徳和）

当局の答弁を求めます。

◎広域連合事務局長（小林秀行）

（挙手）

○議長（木山徳和）

広域連合事務局長。

◎広域連合事務局長（小林秀行）

再質問についてお答えを申し上げます。

まず保険料につきまして、今後低所得者等への軽減でありますとか、配慮等必要ではないかとの御質問と申しますけれども、後期高齢者医療制度の保険料率につきましては、平成 26 年度・27 年度で実施をしております、28 年度・29 年度の 2 か年につきましては、今後検討し、審議会での議論をいただいて、また、この議会の方にも、御議決をいただくための提案をさせていただくことございまして、現在低所得者に対する様々な軽減措置それから配慮というものも、現行の制度の中でございます。今後とも、そういった制度を適切に活用しながら、保険料率の設定に

ついて検討してまいりたいというふうに考えております。

二点目のジェネリック医薬品のこと、高齢者の方に具体的に伝わっていないのではないかというお話でございました。私ども、先ほどの差額通知というものによりまして、後発医薬品を使った場合これだけ薬剤額で差がございませぬということをお知らせしていただいております。

その通知を受けて、実際に後発医薬品に切り替えていただいた方も先ほどの医療費通知の成果ということで現実に出ておるといふふうに考えております。今後とも皆さんの理解が進むように、取り組んでまいりたいというふうに考えております。

三点目でございますが、制度の中で差別や区別があつて不十分ではないかという御指摘でございましたけれども、具体的にどのことを指されておられるのかよく分かりませんが、私どもは、後期高齢者医療を、法令等に則つて適切に運用をしていくということで、今後とも運営をしてまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

◆ 21番（佐中十九昭議員）

（挙手）

○議長（木山徳和）

21番佐中議員。

◆ 21番（佐中十九昭議員）

人間ドックの差別や区別というのは、ここに報告をされました市が7市、町で3町だけしか受けていない、後残りについては、いろいろ差別や区別が発生をしておると私は判断するのですが、その辺についてはどうなんですか、お尋ねします。

◎広域連合事務局長（小林秀行）

（挙手）

○議長（木山徳和）

広域連合事務局長。

◎広域連合事務局長（小林秀行）

人間ドックが7市3町に実績がございまして、その他の市町については26年度実績が無いということでございましたが、これを区別とか差別というふうにおっしゃられるわけですが、この事業につきましては、地域の実情に即して市町が実施をいたします健康補助事業の一つということでございまして、それぞれ市町の判断において実施するかしないかを決めていただいて、それぞれの判断で実施をされているものでございまして、広域連合がその事業に対して補助をしているもの

でございます。

この7市3町のほかに実績が無いことをもって、それが区別であるとか差別であるとかというふうには認識をしておりません。

以上でございます。

○議長（木山徳和）

本件については、ほかに質疑の発言の通告がありませんので、質疑を終結します。これより討論に入ります。

21番佐中議員から発言通告がございましたので、発言を許可します。

◆21番（佐中十九昭議員）

（挙手）

○議長（木山徳和）

21番佐中議員。

◆21番（佐中十九昭議員）

平成26年度広島県後期高齢者医療広域連合歳入歳出決算の認定について、反対の立場で討論を行います。

その理由の一点目は、制度の基本的な立場であります。御承知のとおり、この後期高齢者医療制度は、75歳という年齢を迎えただけで、それまでの健康保険から外される、年齢で差別をされる医療制度となっております。こういう制度そのものは世界にも例はありません。後期高齢者医療制度そのものに私ども日本共産党は創設の当初から反対の立場をとって参りました。この基本的な立場から、一点目、反対をします。

次に、県の財政安定化基金約14億円で対応され、一定の努力はされてきましたことは評価できます。しかし、保険料の負担増がこの決算には盛り込まれています。一つは均等割が297円の増額、それから所得割も8.35%から8.43%、一人当たり平均では898円引き下げたという説明ではありましたが、実質は引き上げられています。

また、国民の批判に押されて消費税の増税の先延ばし等により、財源対策等含め厚生労働省は保険料を最大9割軽減している特例措置を早ければ2016年度から段階的に打ち切り、廃止する方針を明らかにしています。これにより低所得世帯の保険料は3倍にアップするとされています。被保険者の保険料の軽減対策や該当者は前回の議会での答弁では、平成26年度総数369,669人ですが、算定した場合9割軽減を7割軽減になれば約81,000人、8.5割軽減を7割は約75,000人と、約156,000人とみています。これまで8.5割軽減を受けていた人の保険料は2倍、9割軽減の人は3倍にもなり、健保・共済の扶養家族だった人で後期医療に移った人は、5～10倍以上もの負担増を強いられることとなります。こういう負担増の道筋を進めていることに反対いたします。

以上の二点から「議題 14 号 平成 26 年度広島県後期高齢者医療広域連合歳入歳出決算の認定」について、反対をいたします。

○議長（木山徳和）

本件については、ほかに討論の発言通告がありませんので、討論を終結します。
それでは、本件を採決いたします。
本件は、原案のとおり可決することに賛成の方は御起立願います。

（賛成者起立）

○議長（木山徳和）

起立多数。よって、本件は認定されました。

△ 日程第 8 「議案第 15 号 平成 27 年度広島県後期高齢者医療広域連合後期高齢者医療特別会計補正予算（第 1 号）」

○議長（木山徳和）

次に、日程第 8 「議案第 15 号 平成 27 年度 広島県後期高齢者医療広域連合後期高齢者医療特別会計補正予算（第 1 号）」を議題といたします。本件の説明を求めます。

◎広域連合事務局長（小林秀行）

（挙手）

○議長（木山徳和）

広域連合事務局長。

◎広域連合事務局長（小林秀行）

ただ今上程されました議案につきまして、ご説明申し上げます。

議案書は、19 ページでございます。

平成 27 年度広島県後期高齢者医療広域連合後期高齢者医療特別会計補正予算（第 1 号）は、第 1 条にございますとおり、歳入歳出予算の総額に、歳入歳出それぞれ 22 億 3,672 万 6 千円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ 4,032 億 3,425 万 2 千円とするものでございます。この補正の主な内容といたしましては、平成 26 年度市町負担金、国庫負担金等の精算に伴う追加納付額又は返還金を、それぞれ歳入歳出予算に計上し、併せて財源として平成 26 年度決算剰余金を繰越金として追加し、残額を後期高齢者医療給付準備基金に計上するものでございます。20 ページをお開きください。歳入でございますが、「1 款 市町支出金」「1 項

市町負担金」の 7 億 766 万 2 千円の追加は、平成 26 年度の市町負担金の精算に伴い、市町から広域連合へ追加納付していただく額を計上したものでございます。

「2 款 国庫支出金」「2 項 国庫補助金」の 7 千円の追加は、平成 26 年度の災害臨時特例補助金の精算に伴い、国から広域連合へ追加交付分を計上したものでございます。「8 款 繰越金」「1 項 繰越金」の 15 億 1,728 万 5 千円の追加は、決算剰余金を計上したものでございます。「10 款 諸収入」「1 項 延滞金、加算金及び過料」の 41 万円の追加及び「3 項 雑入」の 1,136 万 2 千円の追加は、平成 26 年度の延滞金、保険料還付金、健康増進事業補助等の精算に伴い、市町から返還していただくものでございます。

次のページをお願いします。歳出でございますが、「6 款 基金積立金」「1 項 基金積立金」の 6 億 5,301 万 8 千円の追加は、繰越金と平成 26 年度国庫支出金等の精算に伴う追加交付及び返還金の差額を後期高齢者医療給付準備基金へ積立てる額を計上したものでございます。「8 款 諸支出金」「1 項 償還金及び還付加算金」の 15 億 8,370 万 8 千円の追加は、平成 26 年度の市町負担金、国庫負担金、県負担金等の精算に伴い、広域連合から市町、国及び県へ返還する額等を計上したものでございます。

以上、上程されました議案につきまして概要を御説明申し上げました。御審議の上、御議決を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

○議長（木山徳和）

本件については、質疑の発言通告がありませんので、本件の質疑及び討論を終結し、採決したいと思います。御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（木山徳和）

ないものと認め、本件の質疑及び討論を終結します。本件を採決いたします。本件は、原案のとおり可決することに賛成の方は御起立願います。

（賛成者起立）

○議長（木山徳和）

起立多数。よって、本件は可決されました。

△ 日程第9 「一般質問」

○議長（木山徳和）

日程第9「一般質問」について議題といたします。21番佐中議員より発言の通告がございましたので、発言を許可します。

◆21番（佐中十九昭議員）

（挙手）

○議長（木山徳和）

21番佐中議員。

◆21番（佐中十九昭議員）

21番佐中です。一般質問を行います。全面総報酬制、保険料軽減の特例措置廃止の導入についてお尋ねをいたします。

2013年12月に、いわゆる社会保障改革プログラム法、「持続可能な社会保障制度の確立を図るための改革の推進に関する法律」を成立させ、一つには、保険料に係る低所得者の負担の軽減、二つ目には、被用者保険等保険者に係る後期高齢者支援金の額の全てを標準報酬総額に応じた負担とする、三つ目には、負担能力に応じた負担を求める観点からの高額療養費等の見直しを行うことを法制化しました。

そこで、後期高齢者支援金については、2014年の6月の「骨太方針2014」で、「被用者保険者間の負担能力に応じた負担とする」と改定しております。2015年1月の「医療保険制度改革骨子」社会保障制度改革推進本部決定では、「被用者保険の後期高齢者支援金については総報酬部分を段階的に引き上げて、平成29年度から全面総報酬割」との方針を出しました。これは、国費を投入すること無く、現役世代にいかに負担を強いるかのみ知恵を絞ったものと思われま

す。この経緯をどう認識されているのか、お伺いをいたします。

政府は、2017年度から後期高齢者医療制度の保険料軽減の特例措置を廃止することなどを検討しています。現在の後期高齢者医療制度は、国民の反対運動の中、様々な軽減措置、暫定措置がとられてまいりました。今後、後期高齢者医療制度における特例軽減の廃止などは、高齢者の生活に更なる負担を押し付けるものとなります。特に、特例軽減の廃止は、保険料が2倍から10倍にも増える人が出ることが予想されるなど、医療から高齢者を締め出すものとなっています。年齢によって区別をする後期高齢者医療制度は廃止すべきと考えますが、すぐ廃止されない状況の中では、より一層の高齢者の負担軽減が求められます。後期高齢者医療広域連合として、国に対して特例軽減の廃止についての反対の意見をあげ、より一層の公費負担の増額へ、高齢者の負担軽減を求める必要があると考えますが、広域連合としての考えをお示しく

◎広域連合事務局長（小林秀行）

(挙手)

○議長（木山徳和）

広域連合事務局長。

◎広域連合事務局長（小林秀行）

御質問にお答えします。

まず、後期高齢者支援金の全面総報酬割の導入につきましては、平成 25 年 8 月社会保障制度改革推進法に基づき、内閣に設置をされました社会保障制度改革国民会議により審議をされまして、結論がまとめられております。この結論を踏まえて、国において、「持続可能な社会保障制度の確立を図るための改革の推進に関する法律」が制定されるなど、社会保障制度改革に向けて、具体的な取組みが行われているところであります。後期高齢者支援金の全面総報酬割は、「医療保険制度の財政基盤の安定化」と「保険料に係る国民の負担に関する公平の確保」を図り持続可能な社会保障制度の構築に資するため、導入されたものであるというふうに認識をしております。

それから次に保険料軽減特例措置のお尋ねでございましたが、保険料軽減特例措置につきましては、平成 27 年 6 月 10 日付けで、全国後期高齢者医療広域連合協議会から厚生労働大臣宛に「後期高齢者医療制度に関する要望書」を提出をしております。この中で、「低所得者等に対する保険料軽減特例措置については、その生活に影響を与える保険料とならないよう現行制度を維持すること。やむを得ず見直す場合は、国による丁寧な説明と周知を行い、被保険者の負担を最小限に抑え、急激な増加とならないよう、きめ細やかな激変緩和措置を講じること。」と要望しているところでございます。引き続き、国の動向を注視しながら、的確に対応したいというふうに考えております。

以上です。

◆ 21 番（佐中十九昭議員）

終わります。

○議長（木山徳和）

それでは、一般質問を終わります。以上をもちまして、本定例会に付議された事件は、全て終了いたしました。閉会に当たり、広域連合長の挨拶があります。

広域連合長。

◎広域連合長（藏田義雄）

平成 27 年第 2 回広域連合議会定例会の閉会に当たりまして、一言御挨拶を申し上げます。

まずもって議員各位におかれましては、提案いたしました各議案につきまして、慎重に御審議の上、適切なる御議決を賜りましたことに厚くお礼申し上げます。引き続き、安定した制度の運営に向けましても、我々は今後とも、皆様の格別なる御支援、御協力を賜りながらしっかりと進めてまいり所存でございますのでどうぞよろしく願いをいたします。

皆様方の御協力を心から感謝申し上げ、お礼の御挨拶とさせていただきます。
大変ありがとうございました。

○議長（木山徳和）

議員各位におかれましては、案件について、熱心に御審議をいただきまして、無事閉会の運びとなりました。皆様の御協力に対し、心からお礼申し上げます。これをもちまして、本定例会を閉会いたします。

ありがとうございました。

午後 2 時 51 分 閉 会

地方自治法第 123 条第 2 項の規定により署名する。

広島県後期高齢者医療広域連合議会議長 木山徳和

広島県後期高齢者医療広域連合議会臨時議長 瀧野純敏

広島県後期高齢者医療広域連合議会議員 北元豊

広島県後期高齢者医療広域連合議会議員 福田義人